



7月30日に大慈寺地区コミュニティ防災センターで、子ども会育成会の方々が集まりました。



鉾屋町町内会だより
舟っこ流しつくり
7月30～8月14日



舟っこに飾り付ける花、吹き流し、五色旗などの制作を行います。
明けて31日「龍の頭」をピツ



不定期発行
発行者 鉾屋町町内会
編集/文責/撮影 桂 汎用工房 脇田 桂一郎
印刷 小松総合印刷株式会社

長さ5m、高さ3m、改めて見ると、大きいと感じます。



この後、吹き流しを取り付ける竿を止めれば、大仕事はほぼ終了、船体の完成です。



ピさんからリヤカーで運送。



8月10日、大慈寺前の路上に、舟っこを安置するテントを設営します。(警察から道路使用許可を取っています)これがかなりの重労働でした。





花や、事前に刈り取っておいた笹などが取り付けられていくと、写真でよく見る、舟つこの姿に近づいていきます。



大慈寺の境内から、舟つこをリヤカーに乗せて移動させます。翌11日、再び子ども会育成会の方々が集まり、舟つこへの飾り付けを行いました。



8月13日、盆の入りです。大雨の中、朝一番で、大慈寺の和尚さんによる読経が行われます。



札を舟つこに貼っていきます。



供養をお願いする方が、訪れ始めます。名字や戒名を確認して、供養札を1枚づつ、筆ペンで書いていきます。



これを盆明けの16日に、火を放ちながら流すのです。ところが今年のお盆前は、雨が続ききました。14日は、かろうじて晴れましたが、それ以外はかなりの降水量があり、北上川の水位が高く危険なため、15日午後に延期が決定しました。次号に続きます。



井戸の清掃 ボランティア体験



8月5日、大慈清水と青龍水で、高校生による清掃ボランティア体験が行われました。
市内の各高校から14名が集まり、井戸の歴史や現状の説明を受けた後、2つの班に別れて、普段行われている井戸の清掃作業に入ります。



大慈清水の方は、佐藤好春さんらの指導を受けながら、水を抜いた井戸の中に入って、掃除をします。



青龍水では、佐々木龍大さんが中心になって作業が進みます。



龍大さんが、藍染の染液を作るのに「水」がいかに大切かを話されていたのが印象的でした。



町家のお化け屋敷と うるま市特産品展

もりおか町家物語館では、7月29日より、これも3年ぶりとなる、第六怪町家のお化け屋敷「口裂け女はどこだ！」が開催されました。



オープニングでは、谷藤盛岡市長や鉾屋町 石岡町内会長らがテープカットを行いました。
このテープ、所々にマスクが付いていたりと芸が細かいです。
この後、招待者たちがお化け屋敷を体験しました。どんな中身なのかは内緒です。

翌30日には、3・11絵本プロジェクトもりおかによる、おぼけの話を中心とした、絵本の読み聞かせ会も開かれました。なかなか興味深い話もありました。



お化け屋敷と期日を同じくして、大正蔵の1階では「うるま市特産品展」が行われました。これは盛岡市と、沖縄県うるま市との友好都市提携10周年を記念したものです。あまり見たことがない、というか、私は初めて見るものばかりでした。色使いが沖縄っぽいような気がします。



黒川さんさ門付け

8月14日、盛岡まち並み塾が主催する「黒川さんさ門付け」が、同じく3年ぶりに開催されました。

黒川さんは、盛岡市の黒川地区に伝わる伝統さんさで、昭和43年に伝承団体が復活、久しく途絶えていた町内への「門付け」も、平成19年から、盛岡まち並み塾が中心となって開催を続けていました。

今年も、町内を回ることはなく、場所を定めての踊りとなりました。



大慈寺境内から始まり、

あさ開地酒物産館前、



そして最後は、もりおか町家物語館風の広場です。多くの方が訪れていました。



朝顔日記 2022



ありがたいことに、たくさん咲いております。(桂)